



前置き

まず、レポートが遅れてしまっておめんなさい。

続きは近々……、とか書いておきながらこの体たらく。

ごめんなさい。

さて、今回も前回に引き続きSUMMER SONIC 2010の模様をお送りいたします。

今回は8/8分。

では、お楽しみ下さい。

NEXT → Supe

Supe (マウンテンステージ)

本日のオープニングアクトはSupe !

LOUDロックの本場、アメリカでのツアーを幾度か経験している、との情報を事前にゲットしていたので、期待をしておりました。

取敢えず簡単に言ってしまうと、超がつくほどカッコイイ。

ニコニコ動画でいくつかの音源は聴いていたのですが、その時は「うーん、どうだろう？」と失礼にも思っていたのですが、ライブでは音圧が凄い所為か、すごくカッコイイ。

そして、長年のバンド経験の賜物なのかグローブは朝なのに酔いそうなほどに心地よく、そこに入ってくるヴォーカルがもっと深い世界に連れて行ってくれます。

スケールの大きな音だけでなく、余裕のあるステージングからはこのバンドの『自信』みたいなものが垣間見えました。

チェックしてない方、要チェックですよ！

特にcoldrain、PTPが好きな方はすぐにチェック！

NEXT →サカナクション

サカナクション（ソニックステージ）

正直この時間帯は何も観ずに体力を温存しようかとも思ったのですが、前日にtwitterで見た『サカナクション超良かった』の言葉を信じてサカナクションを観に行くことに。

しかしまあ朝一のステージなのに人が多いこと多いこと。ソニックステージ埋めたんじゃないかと思うくらいに人で埋め尽くされておりました。

そして定刻、レーザーとドライアイスによる煙が幻想的にステージを包み、一音一音が重なり、曲となっていくと、僕等はゆっくりと現実から水の底へと沈んでいき、心地よく窒息をしていく。

冷たい機械音の中で光る生々しい弦楽器隊の音とヴォーカルが美しく、涙が出そうに。

そして、中盤、サカナクションは季節すら変えました。

曲が体感温度を下げて、幻想の雪が舞っている様な感覚に襲われました。携帯を開けて日付を確認、でも今この場所が夏だということが信じられないくらい、曲に引き込まれました。

朝っぱらから涙腺のダムが壊れ、上を向き、ゆっくりと曲に身を任せていると、もう、サカナクションのステージは終わっていました……。

NEXT →AA=

AA= (ダンスステージ)

元THE MAD CAPSULE MARKETSのベースの方のソロプロジェクト。

セカンドアルバムの評判が良かったので、観ることに。

MAD時代の曲は何曲か知っていましたが、あんな感じかなーと思っていたのですが、いやはや、それ以上。とにかくゴリゴリに責める音の中に見えるデジタルの音、先程のサカナクションとは違う、ある意味『突き放された』感のある音に終始圧倒されっぱなしでした。0と1で構築された規律あるカオスが爆音で脳ミソを揺さぶるカッコよさ！脳ミソが犯されることを望んでましたね、この音に。

いいモン観たわあ……。

NEXT → ONEOKROCK

ONEOKROCK (アイランドステージ)

最近出たアルバム『Nicheシンドローム』が恐ろしいほどにテンションの高い作品に仕上がっていたONEOKROCK！当然期待をして観に行きました！

やはりアルバムの評判が良かった所為か、アイランドステージをほぼ満員にしてステージ開始。のっけからの曲でテンションは爆超のままで突っ走るその若さが凄い！まさにアイランドステージ外で輝いている太陽の如くあっついスージングで観るものを引き込みつつも、ステージにいる全員が楽しんでいるのがわかります。

あとヴォーカルの凄いこと凄いこと。ちゃんとCD通りの音が出ているし、ステージの誰よりも動いて体全体を使って表現をしている。そこがまた凄い。

このバンドがもっと成熟したらどうなるんだろう？そう思うとワクワクが今から止まりません。

NEXT → SUM41

A TRIBE CALLED QUEST (マリンステージ)

初見、初聴。

全てが初めてのA TRIBE CALLED QUEST。

次のステージに移動する為に2曲しか観れませんでした。それが今となっては惜しかったと思える。

同じヒップホップでもKREVAさんのステージとはまったく違い、シンプルに1DJ+2MCのみぽつんとステージに現れて、演奏を始めたのですが、それが凄くでっかく観えるんですよ。

音の良さ？曲の良さ？盛り上げ方？どれが原因なのかは分からない、けれども、確実にいえる事はこれがかっこいい、ということだけ。

これでまた少し世界が広がりました。

NEXT → HOLE

HOLE (マウンテンステージ)

.....、正直Fujiロックに出た際に聞いた「演奏グダグダ」の記事を忘れることが出来ず、ネガティブイメージ全開での観賞でしたが、個人的には凄く良かったと思います。

いやさ、女の子の演るロック=かわいい、みたいなイメージを思いっきりぶっ飛ばしてるのが気持ちよかったですよ。音もかわいさなんてないし、ギャリッとしたギターをかき鳴らしながら叫ぶコートニーはかなりカッコよかったです。あと、THEロック姉ちゃん！みたいな格好も忘れることは出来ません（笑）

NEXT → SLASH

SLASH featuring MYLES KENNEDY (マウンテンステージ)

さあ、来ました。

SLASH featuring MYLES KENNEDY !

正直、MYLES KENNEDYって誰よ?とか言う人が多そうですが、彼はアメリカで『ALTERBRIDGE』というバンドを組んでおり、かなりの人気を誇っています。ちなみにそのALTERBRIDGEは元CREED (これもアメリカではかなり人気だったらしい) の楽器隊と組んだバンドであり、歌よし、演奏良しの良バンドです。是非チェックを。あ、あとCREEDは再結成してますので、そちらもちえけらー。

さて、前置きはこれぐらいで。

今回ソロでの来日となったSLASH。

どんなセットリストになったかというところ.....、それはまさにSLASHのこれまで紡いできた歴史の表現したステージでした。

ソロアルバムからは勿論のこと、ガンズ時代の曲あり、VR時代の曲あり、拳句の果てにSnakepit時代の曲まで披露。ガンズのライブを去年の12月に観ておりますが、まさかその数ヵ月後にその元メンバーのライブを観ることになるろうとは.....。

やはり、というか流石と云うかギター上手いし、ギターの音が心地いいんですよ。現在のガンズのライブで披露される既存曲のギターソロ部分の物足りなさってのは、やはりSLASH不在がでかいのかなあ、と思ったりしました。

しかし、ギターだけでなくMYLES KENNEDYのヴォーカルも負けてはいません。ソロの曲以外は自分のヴォーカルでは無い、にも関わらず違和感無く歌い上げる彼はやはり凄いヴォーカリストだと実感。でも、音楽ライター増田さんも書いておりましたが、彼の歌声を聴いた後に、やはり本家の声も聴きたくなるんだよなあ、と。物足りなさは無いけど、やっぱり本家のヴォーカルを聴きたくなるのは性ですかね.....。

後半では「今日はスペシャルゲストを呼んでるぜ」のSLASHのMCでMr.crazy tigerこと稲葉さん (B'z) 登場。SLASHとの競演曲「SAHARA」を披露していました。

やはりこの人の声も凄い、ブレが無いんですよ。あの独特の癖のある声にハイトーンボイス.....、日本屈指のヴォーカリストだと再認識しましたね。最後にMYLES KENNEDYと抱き合ってた姿には何故か美しさを感じました。というか、俺の好きなヴォーカリスト同士が笑顔で抱き合ってたもの、そりゃ美しいと思うさ。

最後の最後はベタですがガンズの「Paradise City」で締め。やはりこの曲で締めないとライブ終わった気に鳴りませんね (笑)

NEXT → DREAM THEATER

DREAM THEATER (マウンテンステージ)

前日に観たATARI TEENAGE RIOTを2曲ほど観て拳をぶん回した後に、急いでマウンテントリのDREAM THEATERへ。

正直「プログレかあ、途中で飽きたりしないだろうか……」と心配になりましたが、そんなことは一切ありませんでした。

ステージの上から奏でられる美メロに酔い、そして、時折見せるヘヴィな音が脳髓を溶かしていく。音の洪水が僕を窒息させました。

そして、ステージ上の楽器隊を見て、僕は……、笑ってました（笑）

いや、馬鹿にしてるわけじゃないんですよ。絶対に。

ほら、例えば目の前でゴジラ級の怪獣とか見たら笑うでしょ？凄すぎて笑っちゃうでしょ？あれと一緒に。演奏テクが凄すぎて笑うしかない。いや、技術的なことはわからないんだけど、凄いのが伝わるんですよ。で、もうステージのモニター指差しながら大爆笑ですよ。傍から観れば失礼な客でしょうけど、それしか方法が無かったんですよ。本当に凄すぎて。

完成された美しさ、というのはこのバンドの為にあると言っても過言ではない気がします。ほんとに、夢を観ているかのような演奏の美しさ。DREAM THEATERという名前を全力で表現しているように思われました。

NEXT → PIXIES

PIXIES (ソニックステージ)

DREAM THEATER終了後に、まだPIXIESが観れたので、観ることに！

正直DREAM THEATERで美メロとテクニックに酔いすぎた所為で演奏に物足りなさを感じたのですが、それでも曲の中にある『温かさ』みたいなものに触れられたと思います。

体温に近いお湯の中に手を突っ込む快感に身を委ねて、ぼんやりと聴いていたら、ステージは、終了していました。

ゆっくりと天井を見上げ、止まない耳鳴りに心地よさを感じながら、踵を返して、僕は現実の待つ外へと、向かっていきました。

—了—